

==子どもの体温==

夏も本番になりました。皆さんはどんな夏を過ごされるのでしょうか。

今日も蒸し暑いなあと感じながら朝ウトウトしていると、目を覚ました下の子が「うきやうきや」言いながらハイハイして私の体をよじ登ってきました。それに気づいた上の子が「あーずるーい」と言ってその上から覆いかぶさってきました。

いつもなら、「暑いから重いからおりてー」と上の子に言うところですが、その日の朝は重さに耐えながら、目をつぶったままで子どもたちに押しつぶされていました。私の胸の上、お腹の上、足の上でふたりが「キヤーキヤー」「うぎやうぎやー」「あははは」と騒ぎながら、がさごそ動いています。気分はまさに子ガメに乗られた親ガメ。

けれど、今朝はそんな騒ぎや二人の重さが何とも心地よく、「ずるーい」と言われるくらい好かれて、くっついてくる存在がいるなんて、これまでにない“モテ期”だな～、と思いながら、寝たままでふたりを抱えながらゴロゴロ転がってみたりしてみました。すると、更に「キャッキヤッキヤ」嬉しそうに足をバタバタ、どうやら子ザルになったようです。

『赤ちゃんの時はスキンシップが何よりも大事だから、たくさん抱っこして話しかけてあげましょう。安定した心が育ち、自分を肯定的に認められるようになり、お母さんとの絆も強まります』というのが現代の育児の定説。

しかし、『赤ちゃん』を『子どもはいくつになっても』と言い換えるのが本当なのでしょう。私自身、子どもが大きくなってくると、しっかりと育てほしい、もう赤ちゃんじゃないのだから、という気持ちで接することが多く、それは親の責任感の表れとして必要なことと思いながらも、手をつなぐ、ひざに座らせる、といった触れ合いさえ少なくなっている気がします。

この夏、子ガメがくっついてきたら暑くても離れず、今しか感じられない体温を感じようと思っています。

(臨床心理士 藤井あづさ)